

【令和5年度 授業改善推進プラン】

板橋区立 板橋第五中学校

【国語】

<p>■生徒の状況</p>	<p>7・8年生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスメイトと共に、一生懸命授業に取り組んでいる。 ・7年生は、まず「聞くこと」に課題がある。また、提出物に対する意識が非常に低い。 ・8年生は、まず「書くこと」に課題がある。特に長文の記述になると書けなくなり、解答を待つだけの生徒が多い。 ・学力の差が大きい。 	<p>8・9年生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両学年とも全体的に落ち着いて授業に参加しているが、主体的に学ぼうとする姿勢に欠ける。 ・やっ得課題を含めた家庭学習の取り組みには差があり、学力差も大きい。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎授業の「振り返り」時間の充実 ・ICTの効果的な活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・「振り返り」時間の充実 ・ICTの活用
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オクリンクやムーブノートなどを用いることによって、発言しやすい環境をつくる。 ・個人で考えてからペアやグループを挟んで全体に還元することによって、自分の力に応じて課題に取り組むことができるようにする。 ・毎回の振り返りをスプレッドシートでの記録にすることによって、自身の学びが気付きや考えに繋がることを意識することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「本時の目標」とともに、単元や教材を通した目標を提示し、身に付けてほしい学習内容の理解を深める。 ・終末の5分間を「振り返り」の時間として確保し、習得した学習内容や気付いたことを各自が記録できるように保障する。 ・学習内容によっては、「振り返り」の内容、小テストや練習問題の形式で行い、個々の課題を明確にする。 ・発言や質問をしにくい生徒の対応として、ICTの活用を含め、意見の共有化を進める。

【社会】

■生徒の状況	<ul style="list-style-type: none">・授業規律を守り、集中して学習に取り組んでいる。・積極的に発言・質問をする生徒が多い。・社会のできごとと授業内容を関連付ける力に課題がある。・家庭学習の習慣が身につけていない生徒が多い。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none">・家庭学習の指導をする時間が十分ではなかった。・まとめや振り返りの時間を十分に確保できていない。・知識の定着にかけられる時間が少ない。・知識の定着を確認する機会が少なかった。
■授業改善に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none">・重要語句の意味調べなど、家庭学習の取り組み方の具体例を示し、家庭学習に取り組みやすくする。・NHK for schoolなどの動画教材を有効活用し、自主学習が授業の中で生かせるようにする。・ICTの活用により、授業中の作業を効率化し、まとめや振り返りの時間を確保する。・授業内では、ワークとの接続を意識して、振り返りのしやすいように工夫をする。また授業内にとどまらず、家庭での学習を充実させるように指導する。・毎单元ごとに小テストを実施し、スモールステップで知識を定着させていく。

【数学】

■生徒の状況	<ul style="list-style-type: none">・習熟度別少人数授業を取り入れ、個々の学力に応じた指導ができ、生徒は授業で質問等をしやすい環境である。・基礎コースと発展コースの人数の比率を1：2程度(第8学年は標準コースと発展コースで2：1)に設定しているため、基礎コースでは発言する機会も多く、間違えることへの抵抗が少ないため、数学は苦手でも積極的に授業に取り組んでいる。また、発展コースでは学力が高い生徒も多くいるため導入などの問題で、様々な生徒の考えを発信・共有できている。さらに第8学年は発展コースが少人数のため、さらに発展的な問題に取り組む時間と、個々に対応した声かけが可能である。・各単元の『利用』の問題(文章題)や関数の問題が苦手な生徒が多い。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none">・読み解く力が弱いため、苦手意識から長文の問題になると読む前に諦めてしまう傾向がある。・「数学用語」を使って説明することを苦手とする生徒が多い。・家庭学習の習慣が十分に身につけていないため、既習事項の定着が十分ではない。・根拠に基づき、筋道立てて論理的に問題を解決していくことが苦手な生徒が多い。
■授業改善に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none">・授業始めに前時の復習・確認を行うとともに、単元終了後に単元確認テストを行い、基礎学力の定着と生徒の理解度の把握を行う。また、単元確認テストの結果を受け、生徒の基礎基本の理解度に合わせてクラスの再編成を行っていく。やっ得課題(ドリルパークおよび問題集)を単元ごとに提示し、小テストを繰り返し行うことでも学力の定着を図る。・理解度が十分でない生徒には個別に声かけをし、学習方法を提案したり、放課後の学習教室等で補充を行う。・「数学用語」を教室に掲示するなど、生徒が常に目にする環境作りに努め、発表の機会等も増やしていく。・読み解く問題については、課題を分割したり、スモールステップで確認したりしながら、自力解決できるようにする。・タブレットを活用して自分の考えを他者と共有したり、他者の考えから学んだりする機会を増やす。・ICT機器等を活用しながら、視覚に訴えたり、操作したりするなど、課題を具体的に考えることを通して、根拠に基づき、筋道を立てて考えられるようにする。・授業の目標に対するふりかえりや自己の達成度をしっかり把握させ、課題意識をもった復習ができるよう助言する。

【理科】

■生徒の状況	<ul style="list-style-type: none">・話し合い活動や観察・実験などの協同的な学習に積極的に参加することができる。・基礎的な知識は備わっている生徒が多く、基本的な語句を問うような問題は得意とする生徒が多い。・結果を考察し、表現することや、グラフを作成することを苦手にする生徒が多い。・予想や仮説と異なる実験の結果が出た場合、その意味することや考えられる可能性について考え、実験の操作や条件制御の不備の可能性を考える力に課題がある。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none">・単元の学習において見通しをもって取り組みませる。・学習したことを振り返って次につなげられる取り組みを行う時間を十分確保する。・自分で考える時間を確保しつつ、他者との協同的に学習する時間も十分確保する。・家庭での学習課題を具体的・個別的に指示する。
■授業改善に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none">・授業開始時には前時の復習を行い、本時に繋げる形で授業を展開する。・授業終了時には本時のまとめを行うとともに、次回の内容を示しながら授業のつながりを意識させる。・問題演習を適宜行い、基礎的知識の定着を図る。また、繰り返し行うことで定着度を高める。・話し合い活動やグループ活動を多く取り入れ、物事に対する思考力と問題解決能力を高める。また文章で表現する機会を多く取り入れ、言語能力の向上に努める。・粒子概念を持たせるために実験で起きている現象を班ごとに共有する活動を通して、仲間との話し合いから自分も持っているイメージをさらに深めさせる活動を行う。予測・考察の場面では、目には見えない粒をイメージし粒子モデルで表す場面を設定する。

【音楽】

<p>■生徒の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年、前向きに課題に取り組んでいる。 ・歌唱の授業を再開して2年目になるので、昨年の基礎練習に引き続き応用的歌唱にも取り組み、歌唱技術を高めている。 ・鑑賞課題は、全学年集中して取り組むことができる。
<p>■指導についての課題</p>	<p>実技</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学年とも昨年より発声の基礎から取り組めたため、肺活量をより高めるために、定着までには粘り強い指導が必要である。歌唱教材における楽曲に関する内容項目の課題はよく理解しており、歌詞の理解は「読み解く力」の観点で課題が残っている。 ・7年生は元気に実技に取り組んだ。音価（音符や休符の長さ等）に関する基礎知識を少しずつ理解しつつある。定着しつつあるが、理解に個人差があるので、2学期にていねいに復習を行う。 ・8・9年生は、昨年度の創作課題により定着した楽譜を読み取る力がさらに向上し、容易に自分で創作をしたリズムを和太鼓で奏することができる。音価の理解が早く、すぐに楽譜に対応し、演奏できる力がついてきたが、まだ十分でない生徒もいるので、2学期にていねいに指導を行う。 <p>創作・楽典</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的読譜力が昨年より向上したが、楽譜の書き方は課題がある。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<p>実技・歌唱</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（都や区のガイドラインに沿って）指導可能な時期に行う。頭声発声の理論と実践、音程やリズムの確認を重点に実施する。 ・音価や音楽記号を正しく表現すること、呼吸法など基礎的な技術をしていねいに指導する。また、五中地域在住の声楽家を招聘して演奏を鑑賞する機会を設け、発声の方法（体の使い方等）を目と耳から学び、自分の歌唱に活かす。 <p>実技・器楽</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学芸発表会に向けて、和太鼓の合奏は、姿勢や動作等基礎的奏法を復習しながら、話し合い活動を取り入れ、協働学習として合奏を深化させる。 ・7年生は、和太鼓の姿勢・基礎奏法を細かく指導し、音価を正しく捉え、重心移動による効率のよい奏法を指導する。 ・8・9年生は、楽譜をより精密に読み取り、表現・音色・パートバランス等を工夫して合奏できるようにする。 <p>創作・楽典</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度の後半ではchromebookを使用して創作を行い、音価の学習のみでなく、主体的に表現を工夫・調整できるように使用できる機能の選択肢を増やす。

【美術】

<p>■生徒の状況</p>	<ul style="list-style-type: none">・授業に取り組む姿勢は、良好で、自分の作品を工夫しながら一生懸命制作する生徒も多い。また他の生徒作品の良い所に気付くことができる。・発想構想面が苦手な生徒がいる。・見通しが甘く、授業時間内に制作が終わらない、時間がかかり過ぎる生徒がいる。・作品に対する向上心があまり見られず、さらなる創意工夫で良い作品にしていこうとする意欲が足りない生徒がいる。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none">・自己表現を豊かに発想し、見通しをもって計画的に制作できるようにする。・授業の目標は理解されているが、振り返りが効果的に行えない生徒がいる。・質問や発言が活発に行われない。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none">・キーワード提示の仕方やワークシートを工夫し、美術室の図鑑なども紹介するなどして、発想構想を豊かにすすめられるようにする。またchromebookの効果的な使い方を考える。・本日の目標とともに、自分の目標に合わせて毎時間の振り返りの記述を具体的に書くように、時間をとったり、声をかけたりするなどをしてふりかえりを徹底する。・自己の制作に集中し作業する時間と、話し合いながら工夫していく時間のメリハリをつける授業を展開する。・机間指導を多くし、質問を受けやすくする。

【保健体育】

<p>■生徒の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に意欲的に取り組むことができる生徒が多い。 ・グループ活動など話し合い活動に意欲的に取り組むことができる。 ・異学年共習等に意欲的に取り組み、学年を超えて話し合い活動を行うことができた。
<p>■指導についての課題</p>	<p>【体育実技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の運動能力に合わせた目標設定。 ・生徒の運動能力に合わせた段階的な指導ができる環境の整備。 <p>【保健】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の内容を理解した上で、実生活に生かすことや体育実技とつなげられるような知識や思考を身につけさせる。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<p>【体育実技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの目標設定欄を活用する。目標を書く際には、具体的に明確な目標を書くように声掛けを行う。また、目標を更新した際書くことができる欄を設ける。 ・段階的な指導ができるよう、練習ができる場所を複数箇所準備する。また、練習のレベルを明確に生徒へ伝え、選択できるように準備を行う。 <p>【保健】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実生活や体育実技と関連づけるため、保健で学んだ知識を実技や生活の中で実証できる課題を設定する。また、生徒にとって身近な話題を中心に授業を展開し、つながりを実感できるような授業を展開する。

【英語】

<p>■生徒の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス単位で授業をしており、学力を配慮した座席（学習パートナー）を指定し、音読テストやライティングで質問や、教え合いがしやすい環境である。 ・授業中に単語テスト、英文書き取り、英会話、音読練習、文法解説／問題を解くという流れで取り組みを行っているため、文法・語彙の基礎を身につけている生徒が多い。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ESAT-J(スピーキングテスト)に向けて、絵を見て状況を説明したり、自分の考えを説明するスピーキング力の育成を行う必要が急務である。(英検準2級2次試験の練習) ・リスニングのメモの取り方などのスキルを具体的に教える必要がある。 ・家庭学習・復習の習慣を身につけさせる必要がある。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<p>スピーキング</p> <p>帯活動でチャットを行う。7年生は30秒、8年生は1分、9年生は1分半、与えられたテーマに沿って会話が続けられるように、段階的に指導する。学期ごとにALTと共にテストを行い、ルーブリックに従って評価し、生徒一人一人にフィードバックする。</p> <p>ライティング</p> <p>チャットでやりとりしたテーマを元に3行英作文の課題に取り組ませる。その際、クロムブックを使用すると翻訳ソフトで英文を作り上げてしまうので、入試に慣れる意味でもプリントに、記入させる。(開始3分後に、定型文を板書)英作文をその都度添削し、生徒にフィードバックする。</p> <p>リスニング</p> <p>メモの取り方や、英語独特の発音、音と音がつながるリエゾン、適宜指導する。英文を聞いて穴埋めをする活動を取り入れる。</p> <p>リーディング</p> <p>初見の英語で書かれた文章を読む機会を、取り入れる。英問英答の問題を与え、生徒のレベルに応じて、答えさせ方を工夫する。(英語が苦手な生徒に対しては、本文に線を引く程度でOKとする等)多読を帯学習で行っていく。</p> <p>家庭学習習慣をつけさせる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・30分以内で終わる分量の、具体的な家庭学習内容を提示する。 ・家庭学習内容に基づいた小テスト等の反復テストを行う。 ・声掛けを個別に行う。